海がすき！

少年少女ＯＨ！さかな教室　活動報告

能生町漁業協同組合
青年部　保坂　悟
池田和嘉

１　地域及び漁業の概要

能生町は、新潟県の南西部に位置し、人口は約１万１千人。漁業と観光で賑わう自然豊かな町である。

能生町漁業協同組合は、正組合員１１８名、准組合員９０名、合計２０８名である。

主な漁業は、ベニズワイガニ篭漁業、小型機船底曳網漁業、延縄漁業、刺網漁業などである。

平成１０年の水揚金額は約８億６千万円、水揚量は約１３５１ｔであった。

２　研究グループの組織と運営

当青年部の部員は１４名で、カニ篭部員５名、底曳網部員６名、組合職員３名で構成されている。運営資金は、部員の年会費、組合からの助成、魚祭り等の一部事業収入でまかなっている。

主な活動としては、毎年７月の初めに開催する港まつりを中心に活動を行ない、新潟県さかなまつり、能生いきいき祭りなどの対外行事にも積極的に参加し、調和のとれた明るく活動的な青年部である。

３　研究・実践活動課題選定の動機

当青年部は、昨年１月13日に行われた青年部総会において、今まで取り組んできた活動とは別に、より地域に密着した活動はできないものかと、部員全員で話し合いを行った。その中で、部員の一人から未来の担い手である子供達に、広く海のこと、魚の事、漁業のことを知ってもらう為の魚祭りを行なったらどうかとの提案があり、皆で更に協議を行った。

活動の内容として、単なるお祭り的なイベントでは、他の地域でも行っていることであるし、地元に与えるパンチ力にも欠けるのではないかと考えられた。継続性があり、子供達に喜んでもらえるような活動で、何より「他の地域ではできないもっと新鮮な活動にしたい」との意見が大半を占めた。そこで、子供達に直接海や魚、漁業に触れてもらう課外授業というかたちで取り組むことにした。

それが、今回私たちが取り組んだ『少年少女ＯＨ！さかな教室』である。

４　研究・実践活動状況

この活動の一番の目玉は、洋上で実際の操業風景を見学してもらうということにあった。地元にある新潟県立海洋高等学校の２隻の実習船「海洋丸（２９９ｔ）」と「くび

き（１９ｔ）」が、能生漁港を母港としていたことが、この行事の大きな鍵であった。
普通、学校ではビデオや写真を使って学習するのが一般的で、このように潮風を肌に感じながら、実際に洋上で操業風景を体験することは、子供たちにとって初めての事であろう。
最新鋭の設備を搭載した両船は、子供たちの興味を大いに引きつけ、船員の方から機関室や操舵室、計器類、居住スペースなどの説明をしていただいた。
特に子供たちは大型の双眼鏡が気に入った様子で、レンズをのぞき込んでは、はしゃぎ回っていた。
沖合に出てからは、実際に行なっている操業そのままに、うきを投げてから網打ち、網上がりまでの様子を間近で体験した。カモメが船に群がり、獲れた魚が飛び跳ねたりする様子を見て、子供たちは歓声を上げていた。
漁具の説明などは、今、まさに使われている道具であったので、子供たちだけでなく先生方も興味を持っている様子であったが、説明については経験がないため、漁師用語を使ってしまうなど専門的になってしまい、多少の失敗もあった。次回は、道具の説明だけでなく、網をなおす風景を見学してもらい、漁業者と交流したり、実際に網直しを体験してもらったりと、もう少し工夫していきたい。
さらに、今回間に合わなかったベニズワイガニ篭漁業の操業風景のビデオを作り、能生の特産品であるベニズワイガニの獲り方なども教えていきたい。
また、この時期、能生漁港には他県からのイカ釣り船が多数入港しており、この地域では見られなくなった船なので、船の構造やイカを釣る仕組みなどを説明した。これだけの設備を揃えるにはたくさんのお金がかかることを教えると、子供たちは自分たちの小遣いと比較しながら、とても驚いていた。
さらに、漁港内には、ヒラメなどの稚魚を栽培育成する海洋高校の実習施設があり、そこを使用させて頂き、海洋高校の先生に説明をして頂いた。この結果、限られた時間を有効に、効率良くビデオ学習と稚魚の成長の様子を体験させることができた。
昼食時には、子供たちの手でイカを焼いてもらい、私たちが用意した能生特産のベニズワイガニとニギスのつみれの味噌汁も食べてもらった。さながらバーベキュー感覚の昼食になり、子供たちも私たちも楽しい時間を過ごすことができた。
反省会の席上、今後の参考の為に、各小学校に絵画と感想文の作成をお願いした。
絵画については、「海がすき！」という言葉を聞いて、自由に発想することを描いてもらい、感想文については、この活動に参加して思ったことや、こうして欲しいなどの要望を書いてもらった。

5　波及成果及び今後の計画

青年部総会のときに話し合われた「継続性」ということについて、学校関係者、教育委員会からは、この活動について大変に評価して頂き、今後もまた実施して欲しいという要望も頂く事ができた。後は、海洋高校との連携を密にすることによって、次回以降の開催が可能になった。当初より考えていた「継続性」という事についてクリアできたことは、私たちにとっても大きな経験であり、財産である。
また、今回の成功の理由の１つに、とにかく無事故で行えたことがあげられる。絶対

無事故、絶対成功を部員全員が心に持ち、真剣に取り組んだ事がこの成果につながった

今回は、第１回目ということもあり、万全を期すため、青年部が参加者全員に傷害保険を掛ける事にした。町や教育委員会には、今後、今回の活動を学校行事として扱って頂くことになり、来年度からは保険については教育委員会で対応して頂くことになった

今年の夏に、漁港と漁村、そこに携わる人々に活力を与えるような壁画の作成を計画しており、現在関係機関との協議を行っている。子供たちの自由な発想から生まれた絵画を参考に、北防波堤に描く壁画の原画を作成しているところである。

さらに、描いてもらった絵画を有効に活用するために、青年部が毎年７月の初めに開催している港まつりの時に展示した。

初めての試みであったこの絵画展示は、地域の方々の評判も良く、孫の絵を見るために、おじいさんやおばあさんが多数見にこられていた。地域に根ざした活動を行う上で思わぬ所で波及効果を生み、結果として港まつりに新風を吹き込むことができた。

今後は、より多くの人たちに絵画を見てもらうために、公的機関やスーパーなどで展示してもらえるように働きかけていきたい。

感想文には、多数の質問と合わせて、様々な感想が書いてあった。中には、「漁師になりたい」とか、「今まで魚や船にあまり興味が無かったけど、この行事に参加して興味が湧いた」などといった意見があり、私たちにとって、何事にも代えられない一言であった。質問に対しては、一問一答形式にして各学校ごとにまとめ、送付した。学校によっては、授業でそれを使ってくれたところもあったそうである。

この行事は１年行っただけで結果が出るものではない。この活動に参加した小学生がやがて大人になり、子供のころのこの行事が教訓として胸に刻まれるとき、また一人でも多く、この漁業という仕事に振り返ってくれたとき、その時に初めて結果が出たと言える。その時が来るまで何年かかるか判らないが、とにかく本当の結果が出るまで、この活動を続ける必要がある。

継続性という面ではクリアできた今、今後は、この活動と私たちが考えていること、伝えたいことをなるべくたくさんの人に知ってもらうよう、マスコミまたは自主活動などを通じて広めていきたい。

また、魚食普及にも力を入れ、魚のおいしい食べ方やさばき方など、実生活に役立つような活動も行なっていきたい。

最後に、当青年部は部員が少ない。この活動を行なうにあたり、組合役員を始め地元組合員や県漁連上越支所の方々にご協力をいただいた。今回の活動で、青年部内はもとより組合員や関係機関の方々との間に、強力な信頼関係が築き上げられた事は、私たちにとって大きな成果であった。この信頼関係を大事にし、婦人部などとも協力しながらより活発に活動していきたい。

参考資料１　　『少年少女ＯＨ！さかな教室』実施要綱（抜粋）

１　目　的　①能生町は日本海に面していて、そこから受ける恩恵は大きい。その海の大切さを感受性豊かな小学生に理解してもらい、又、その海になれ親しんでもらう機会を与える為に行う。
②資源管理という観点に立って、人々の食生活に欠かすことのできない魚介類の現状について知ってもらい、安全な食料供給のためにも、海洋汚染は食生活を脅かす要因であることを理解してもらう。
③漁港を有する地域という観点に立って、実際に乗船して、小学生に生の操業風景や船自体を見学してもらい漁業の役割やそこで働く人々との交流を通じて、水産業のあらましを教え、地域の特性を理解してもらう。

２　テーマ　『海がすき！』

３　主　催　能生町漁業協同組合青年部

４　後　援　能生町漁業協同組合　県立海洋高校

５　協　賛　能生町教育委員会　新潟県漁連上越支所

６　開催時期　５月２６日（火）　木浦小学校（５・６年生　１４名）
中能生小学校（５年生　１４名）
南能生小学校（５年生　１４名）
６月　９日（火）　能生小学校　（５年生　６５名）

７　開催場所　能生漁港

８　主要行事の内容（５月２６日）

☆なぎ・晴天の場合

ＡＭ	９：００	集合　海洋丸乗船　出港
ＰＭ	０：００	入港
	０：３０	昼食
		活魚いけす開放
		網説明
		各施設案内
	２：３０	終了　解散

☆しけの場合

ＡＭ	９：００	集合　海洋丸乗船
		海洋丸各施設案内
		中間育成施設案内
		底曳網操業ビデオ鑑賞
ＰＭ	０：００	昼食
		活魚いけす開放
		網説明
	２：００	終了　解散

9　主要行事の内容（６月　９日）

☆なぎ・晴天の場合

	AM 9:00	AM10:00	AM11:00	PM 0:00
Ａ班：	乗 船 実 習➔	網・船実習➔	ビデオ学習➔	昼
Ｂ班：	網・船実習➔	ビデオ学習➔	乗 船 実 習➔	
Ｃ班：	ビデオ学習➔	乗 船 実 習➔	網・船実習➔	食

PM 2:00

昼食後➔いけす開放➔海の資料館・越山丸見学➔終了・解散

☆しけの場合

・当日のローテーションは、上記と同じ。ただし、乗船実習に関しては、『くびき』『あけぼの丸』『大栄丸』『長福丸』を荷捌所の岸壁につけて、見学させる。

☆荒天の場合

３時間目　ビデオ学習（視聴覚室）
４時間目　調理実習　（調理室）

10　お願い

☆終了後日、感想文と絵画の製作をお願いする。

・感想文に関しては、『少年少女ＯＨ！さかな教室』の感想、要望等を自由に書いてもらう。
・絵画に関しては、『海がすき！』という言葉を聞いて、自由に発想することを絵に描いてもらう。
・絵画は青年部で協議し、北防波堤に描く壁画の原画を２、３点決定する。

参考資料２

企画から反省会の過程内容

１月13日	青年部定期総会	少年少女ＯＨ！さかな教室の提案並び議決
２月13日	青年部会議	企画の趣旨、目的の決定
２月16日	海洋高校訪問	海洋丸（実習船）依頼の手続きを請う（午前） 海洋丸借用並び協力依頼（午後） 組合長同伴
２月17日	教育委員会訪問	教育長に企画内容の説明、協力要請 地元議員同伴
	青年部会議	小学校への参加依頼の準備（授業内容の関係で５年生を参加対象とする）
２月18日	各小学校訪問	参加依頼した小学校－能生小学校、木浦小学校、中能生小学校、南能生小学校、 各小学校ともに感触良好　　25日までに参加、不参加の返答を頂くことにした
２月24日	青年部会議	全ての小学校より参加希望頂く 乗船定員の都合上参加校の調整を行う
	各小学校訪問	全校同日参加は不可能の説明
３月３日	青年部会議	再度参加校の調整と善後策の検討
３月４日	海洋高校へ相談	くびき（実習船）借用依頼
	木浦小学校訪問 能生小学校訪問	複式学級のため、５・６年生参加で了承する日程と内容を変更し、能生小学校単独参加の形で了解して頂く
４月６日	マリンドリーム訪問	海の資料館（越山丸）使用許可申請
４月15日	組合研究会への協力依頼文作成と提出	
４月21日	打ち合わせ会	三校の先生方と意見交換、質疑応答

5月19日	打ち合わせ会	三校の先生方と意見交換、質疑応答、最終確認 乗船名簿の提出（保険加入者の確認）
5月23日	青年部会議	当日の味噌汁の内容と段取り確認
5月24日	メギスのすりみ作り	
5月25日	前日準備	炭火焼き、いけす、会場、かまどの位置、準備 いかボイル
5月26日	少年少女OH！さかな教室当日 三校（木浦、中能生、南能生） 能生小学校訪問	担当教諭との打ち合わせ、意見交換、質疑応答
6月2日	打ち合わせ会	能生小学校の先生方と意見交換、質疑応答、最終確認、会場案内、 青年部内の役割分担の決定と確認 港まつりの内容の検討
6月3日	三校（木浦、中能生、南能生）訪問	反省会の案内、絵画展示用の額縁の借用依頼
6月5日	打ち合わせ会	能生小学校先生と細かい詰めをする
6月8日	前日準備	炭火焼き、いけす、会場、かまどの位置、準備 いかボイル、ビデオ設置
6月9日	少年少女OH！さかな教室当日 能生小学校	反省会の案内、絵画展示用の額縁の借用依頼
6月16日	少年少女OH！さかな教室反省会	青年部、参加小学校、海洋高校、組合員協力者
7月4日	第5回港まつり	絵画展示

参考資料３　　子供たちの感想文の内容（抜粋）

・私は魚が大嫌いです。でもちょっと好きになったかもしれません。
（能生小　丸山祐佳）

・青年部のみなさんが言っていた通りに、海はゴミがいっぱいありました。きれいな海水だったのに、ゴミがあればきれいではありません。
（能生小　杉田瑞希）

・僕の友達の徹君が、「海洋高校に入ろう！！」と言っていました。
（木浦小　五味川丈二）

・ブリッジにうちのとは比べものにならない双眼鏡がありました。ずっと奥まで見えて結構おもしろかったです。
（南能生小　斉藤綾香）

・魚を網からとるとき、カモメがたくさんいました。すごいと思ったことは、少ない人数でたくさんの魚を獲っていたことです。
（木浦小　伊藤美里）

・ＯＨ！魚教室に来て、魚のこともわかったし、漁師さんの仕事もわかったし、楽しくていい勉強になったと思います。
（中能生小　丸山竜実）

・これからも海の楽しさ、魚のおいしさをみんなに伝えてくれることを信じています。来年の５年生にも同じ教え方をしてください。
（能生小　田中健太）